



about love



クワンチュー アイ ／ 關於愛



「コトバより大切なもの」……この映画は、アジアの3つの大都市（東京・台北・上海）を舞台に、国籍の違う3組の男女を通してそれを模索するオムニバス作品である。

この作品のテーマの1つは国境を超えるクロスオーバー性であり、各編ごとに出演する俳優や監督が、物語の舞台となる国々の出身者からなっている。たとえば東京編では、CM・TVで活躍中の伊東美咲と、先日公開となった映画「シュガー&スパイス〜風味絶佳〜」にも出演している台湾の俳優チェン・ボーリンが主演する。伊東はインテリアの壁画などを描くアーティスト・美智子、ボーリンは漫画家志望の留学生・ヤオを演じており、2人のフレッシュな演技が光る。また、東京編の監督は「SHINOBI」で監督としても一躍有名になった下山天であり、随所で彼なりの東京という街の捉え方を伺うことができる。さらに言えば、実はこの映画の3編は、互いに細かいところでつながり合っている。映画のストーリーを追ってだけでなく、そうした視点

から観てみるのも面白いだろう。

そしてもう1つのテーマは、タイトルからもわかるように、「愛」である。3編それぞれが固有の愛の形を描いているが、どの物語にも共通するのは、主人公たちは言葉による意思疎通ができていなくても、確かにその絆を深めていっていることだ。そこには、しなやかで繊細ながらも強靱な、さながら良質の絹糸のような、人と人をつなぐ力の大きさを伺うことができる。とりわけその大きさを実感するのは上海編で、主人公・修平（塚本高史）とヒロイン・ユン（リー・シャオルー）のラストシーンは、静と動の対比も相まって、圧巻という他はない。愛という人と人とのコミュニケーションの究極進化形は、時には優しくもあり、時には非情なほどに壮絶なものにもなり得ることを教えてくれる。

もしも今、あなたが誰かとの関係に迷っているのなら、この映画を観てみてはどうだろうか？ その迷いの答えが、そしてあなたにとっての「コトバより大切なもの」が、見つかるかもしれない。（鏡）



Lost in Space

By AIMEE MANN (V2 records Japan, 2002)



夜風もだんだんと涼しくなっていく、季節は秋。そんな時期にすすめたいのが、アメリカのシンガーソングライター AIMEE MANN (エイミー・マン) の「Lost in Space」というアルバムである。

AIMEE MANNは、'80年代にティル・チューズデイというバンドでベース&ボーカルとして活動し、'93年にソロ活動を開始した女性アーティストで、'99年には映画「マグノリア」（トム・クルーズ等出演）のサウンドトラックを手がけ、グラミー賞2部門にノミネートされた。そして、'02年にはザ・ビートルズのカバーを集めた映画「アイ・アム・サム」のサウンドトラックに参加している。

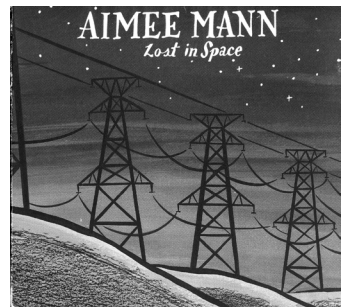
この「Lost in Space」というアルバムには、「REAL BAD NEWS」、「IT'S NOT」といった一見ネガティブなタイトルの曲が並ぶ。アコースティックで少し憂いを

帯びた調子の曲に乗る、人間の心の光と影について哲学的な言葉で綴る歌詞、時にまるで祈るようにささやく歌声。それらはどどん日が短くなっていき、草木も衰えゆく秋の物悲しさを彷彿とさせる。しかし、それらの楽曲は同時に自らの、また他人の心の闇を真摯に見つめ、掬い上げようとする慈悲深さに満ちていて、AIMEE MANN自身の人間的な芯の強さをも感じさせる。彼女は46年間の人生において、所属していた大手レコード会社と音楽活動の方針について対立し、自ら独立して音楽活動を続ける道を選ぶなど、喜びや楽しさだけでなく、悲しみや辛さも十分に味わってきた。だから、彼女の生み出す曲には慈悲深さや芯の強さが自然とにじみ出てくるのであろう。

また、右の夜景のイラストのCDジャケットと中のブックレットの漫画は切

なさを感じさせながらもチャーミングであり、このアルバムの世界観、ひいては AIMEE MANN本人の人間性を物語っているといえよう。

読書をしながら、考え事をしながら、眠りにつきながら、はたまた夜道を歩きながら、音楽にゆるりと身をゆだねたい、そんな夜に是非。（スピカ）



はみだし
すてーじ

落ち込むこともあるけれど、私、この学校が好きです。
⇒京大を大切にしない奴なんて、大っ嫌いだ!!

(総・1 築紫)
(ジブリ返し；編)